

# 「横浜市民生活白書 2026」を公開します

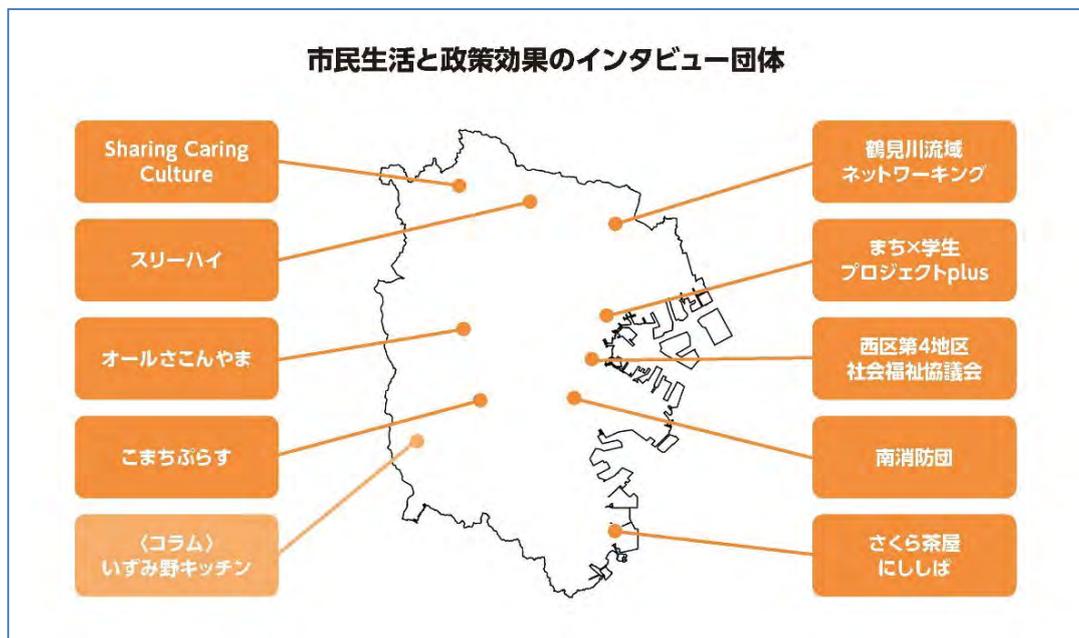
横浜市では、市民生活の実態を把握し、その現状と課題を市民と共有するため、1964（昭和39）年より不定期で「横浜市民生活白書」を発行しています。

15冊目となる今号では、「市民生活の豊かな選択肢」をテーマに、横浜市民の人口動態や世帯構成など、横浜で暮らす市民生活の現在地をデータでまとめたほか、子育て世代のゆとり、若者のグローバル教育、現役世代の地域活動への参加、高齢者の就労・就業など、横浜市民の豊かな選択肢を紹介しています。

また、新たな試みとして、地縁団体や企業、市民活動団体を対象にしたインタビュー調査を実施。「市民の声」を通じた政策や事業の効果検証を試みました。



横浜市民生活白書 2026 表紙



#### 【冊子販売について】

市民生活白書 2026 はウェブで公開したのち、令和8年度以降、横浜市庁舎3階の市政刊行物・グッズ販売コーナーにて冊子販売を予定しています【価格未定】。

URL :

<https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/seisaku/torikumi/shien/hakusyo/hakusyo2026.html>



裏面あり



**GREEN × EXPO 2027**  
YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月～9月 横浜・上瀬谷



# 横浜市民生活白書2026のポイント

## ポイント①横浜市民の豊かな選択肢を紹介(第2章)

乳幼児期(子育て世代)から小・中学生、現役世代、高齢者など、市民のライフステージに応じ、横浜市民の豊かな選択肢と、選択肢につながる政策や施策を紹介しました。各選択肢が、行政のみならず多くの関係者の活動や取組によって支えられていることも示しています。



第2章掲載画像

第2章本文イメージ

## ポイント②“市民の声”から政策効果を検証(第3章)

子育て支援やまちづくり、地域福祉など、様々な政策テーマに取り組むNPOや地縁団体、企業の声を、後世に語り継ぐ市民の歴史として記録。政策や事業の効果検証を、市民生活の目線から進めました(9つの団体・企業を対象にインタビューを実施)。

**interview**  
**特定非営利活動法人 さくら茶屋にしば**  
 代表理事 藤原 美穂(左)  
 代表理事 藤原 美穂(右)  
 ※インタビューの様子(左)

「さくら茶屋にしば」は、横浜市の中心部、桜木町にあり、創業100年以上の歴史を持つ老舗茶屋です。現在は、地域活性化や子育て支援に取り組んでいます。インタビューでは、地域の歴史や文化の継承、若者の集いの場の提供、子育て世代への支援について話を聞きました。

「さくら茶屋にしば」は、創業100年以上の歴史を持つ老舗茶屋です。現在は、地域活性化や子育て支援に取り組んでいます。インタビューでは、地域の歴史や文化の継承、若者の集いの場の提供、子育て世代への支援について話を聞きました。



第3章本文イメージ

<b>お問合せ先</b>		
政策経営局 経営戦略課 担当課長	今井 智子	Tel 045-671-4202



**GREEN x EXPO 2027**  
 YOKOHAMA JAPAN

2027年国際園芸博覧会 2027年3月~9月 横浜・上瀬谷

